海外レポート	ベトナム　ホーチミン

「テトを祝うホーチミン／プラス 8%の GDP 成長」

石川　幸

＜テトを祝うホーチミン＞

「Chúc mừng năm mới（チュック ムン ナム モイ）」とは、ベトナム語で謹賀新年の意味です。ベトナムでは、旧暦での正月（テト）が実質的な新年として社会的に機能しており、2023 年のビジネスカレンダーとしては１０連休も多く見られました。

市内では赤色が最も象徴的な飾り付けとして使われる時期です。赤は幸運、金運、繁栄を象徴する色で、黄色も非常に好まれています。みなさまにおかれても、2023 年も良い１年となりますようにホーチミンから祈念しています。

【ホーチミン特別市の７区、テトの飾り付け】

＜プラス 8%の GDP 成長＞

2022 年を振り返ると、ベトナムの力強い経済成長と回復力が示された１年となりました。

2022 年 12 月 29 日、ベトナム経済総局は 2022 年１月～１２月の実質 GDP 成長率（推計値）を前年対比プラス 8.02%と発表しました。これは、まだコロナ禍であった年初の政府目標プラス 6.0～6.5%を上回り、高い成長率となりました。また、ベトナム１人当たり GDP は、初めて 4,000 米ドルを突破し、4,110 ドル、前年対比プラス 393 ドル、10.5%の増加となりました。

内訳の特徴として、サービス業と製造業を見ると、（１）GDP の約４割と最大の比重を占めるサービス業（日本：約７割）では、新型コロナからの反発もあり、プラス約 10%と最も大きく全体の成長を牽引しました。サービス業に含まれるホテル・飲食部門では、プラス約 40%と大幅な回復を示しました。

（２）GDP の約４分の１を占める製造業（日本：約２割）では、プラス 8.1%でした。ただし、2022 年第４四半期では約 3%と成長は鈍化しており、これは世界経済鈍化の影響とみられています（特に欧米からの受託生産型業種の一部ではリストラが実施されたなど、悪影響が散見されました）。

ベトナムのマクロ経済は相対的にはかなり良いと思われますが、構造改革が必要な部分、脆弱な部分などの課題もあります。ただし、それらは悪とは限らず、ある意味チャンスでもあることを、ぜひ知っておいていただきたいです。

＜ベトナムの構造改革（魅力と課題）＞

ベトナム経済が順調な一因は、好調な輸出にあります。輸出額の GDP 比率は約 92%と高い水準にあります。ちなみに、日本の輸出依存度は約 15%であり、アメリカやブラジルに次いで世界的にも極めて低い水準です。2022 年の総輸出額は前年対比でプラス 10.5%の 3,713 億米ドルと過去最高で、貿易収支はプラス 124 億米ドルでした。

しかしながら、逆を言えば、これから、より一層のベトナム国内の内需拡大をどのように進めるのか、それと並行して、内需主導型の経済モデル（サービス業の GDP に占める率が一段と伸びることなど）への移行をどのように進めるのかという観点にも注目が集まりつつあります。これを障壁・課題・ボトルネックと見る方もいるでしょうし、残された可能性・魅力とも言えるでしょう。

私のいち企業家の観点からは、ベトナム国内市場に着目した日本企業の進出動向はすでに１０年前から始まっており、今後も持続的に続くものと見ています。もちろん、市場全体が大きくなれば、ベトナムローカル企業との競争、グローバル企業との競争もさらに一段と厳しさを伴ってくるものと思われます。

ベトナムの人口は、ベトナム保健省によると、2023 年 4 月頃に１億人を突破すると見られています。また、国連人口基金（UNFPA）によると、現在の人口ボーナス期は 2041 年まで続くとも言われています。一方で、ベトナムは世界でも類を見ないほど急速な高齢化にも直面していることも事実です。